教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森戸卓也
編集人 福山香織
電話 050（3538）2346
1部15円 年定価360円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2024/7・15
No.2097

・タイ・バンコクにて第1回ＥＩＡＰ女性会議を開催
・なだぎ武さん特別講演
・教職員共済協同組合 兵庫県事業所主催「カムバックセミナー」

兵教組教育懇談会

学校現場の切実な声を訴える

6月22日、兵政連議員や第50回衆議院議員選挙立候補予定者を招いて、兵教組教育懇談会が開催され、組合員・退職教職員約160人が参加した。

水岡俊一参議院議員のあいさつの後、松浦書記長より学校現場の課題やとりまく状況について（要旨掲載）報告があった。

その後、グループにわかれて学校現場の課題や教職員の働き方改革、社会保障のあり方などについて、議員・立候補予定者と語り合い、教職員、退職者の声を訴えた。

冒頭、森戸中央執行委員長の開会のあいさつの後、兵政連議員や第50回衆議院議員選挙立候補予定者の紹介があり、代表して、水岡俊一参議院議員からあいさつを受けた。

教育懇談会では、18班にわかれて意見交流をおこない、学校現場の厳しい実態や切実な声を各議員に届けた。

懇談会終了後、現職国会議員より、意見を受け止め、とりくみをすすめる思いが語られた。

山名兵退教協会長による閉会あいさつの後、森戸中央執行委員長の団結がんばろうで会を締めくくった。

学校現場の課題や状況

1．子どもを取り巻く状況

・子どものいじめ・不登校はともに過去最多（文科省22年）となり、公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数は過去最多である（文科省21年）。

・新型コロナウイルス感染症が、子どもたちの心身に大きな影響をもたらした。

・小学校5～6年生の9～13％、中学生の13～22％が中等度以上のうつ状態にある（国立成育医療研究センター21年）。

・児童虐待相談対応件数は過去最多（厚労省21年）。22年度の県内のこども家庭センターにおける児童虐待相談件数は、神戸・明石も含め9，101件（21年度より311件減少）と、13年度以来10年ぶりに前年度を下回ったが、「ヤングケアラー」という新たな事例も増え、高止まりの状況にある。

・兵庫県の22年度の長期欠席者数がすべての校種で増加をしている。小学校9，605人（21年度7，177人）、中学校12，880人（21年度10，691人）、高等学校2，574人（21年度2，408人）

・心のケアや支援を必要とする子どもたちが増えている中、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの時間数増や配置拡充、不登校担当教員の増員、不登校児童生徒支援員の配置拡充と確実な配置など、国・県・市町が連携して子どもたちを支える人的環境整備をおこなうことが必要である。

グループでの意見交流の様子

2．学校園を取り巻く状況（教職員の未配置問題について）

▼教職員のなり手不足

県教委は、教員不足の状況もふまえ、今年度の採用試験では募集人数を70人増員するとし、教員志望者や臨時講師の確保にとりくむとしているが、今年度も当初から未配置が生じている。

昨年、国は人材確保の観点から、民間よりも早い時期に教員採用試験を実施するよう各自治体に示した。今年度、兵庫県をはじめとする近畿各府県において、大学3年生からの受験を可能とし、一週間早く実施された。全国の受験日に差異ができたことで併願しやすくなり、受験者が増えるのではないかという見込みもあったが、兵庫県の受験倍率は昨年度より低くなっている。

早急に教職員の未配置問題を解消し、人材を確保するためにも、業務を削減し長時間労働を是正すること、採用・任用のあり方、働きやすい職場づくり、学校園スタッフの増員など、持続可能な学校園づくりをすすめることが必要である。

3．「学校の働き方改革」について

▼審議のまとめについて

5月13日、中教審特別部会は、『審議のまとめ』を公表したが、これまで学校現場がもとめてきた業務削減、教職員定数の改善、給特法の廃止・抜本的見直しからほど遠いものとなっている。処遇改善は必要であるものの、あり方や財源確保などの課題がある。勤務時間意識を希薄にし、時間外労働を容認する要因となっている給特法は、憲法に保障された労働者の権利（労基法）に反するものであり、教員だけ認められないことは問題である。

6月、『審議のまとめ』に対するパブリックコメントが実施された。今後、答申が出され、今年度中に法案が国会に提出される見込みとなっており、国会議員等とのさらなる連携が重要になる。また、社会的対話をとおした世論喚起や、給特法廃止・抜本的見直しを軸に持続可能な学校をめざす趣旨の意見書採択にもとりくんでいく必要がある。

▼業務改善ガイドライン

県教委は「教職員勤務実態調査」（22年度実施）および「教職員の業務改善モデル事業」（23年度実施）の結果をふまえ、3月、今後の学校業務改善のとりくみの方向を示す「業務改善に関するガイドライン」を策定した。さらに、先進的な事例について随時募集し、「ＧＰＨ１００＋（プラス）」として県教委ＨＰを更新の上、各学校に横展開するとしている。各学校においてガイドラインをもとに、とりくみをすすめていく必要がある。

4．部活動の地域移行について

6月、県教委は部活動地域移行推進委員会において、「兵庫県部活動地域移行推進計画」（案）（以下、地域移行推進計画）を示し、7月の部活動地域移行推進協議会での協議をふまえ策定するとしている。今後も教職員の働き方改革、および子ども・保護者の経済的・物理的負担軽減の観点にたち、持続可能な部活動となるよう意見反映をおこなう必要がある。さらに、教職員の服務について、兼職兼業だけでなく、これまでから課題であった生徒引率をともなわず大会運営のために、役員・審判等として参加する場合について、服務の整理等が必要である。

地域移行推進計画が策定されれば、各市町においても部活動の地域移行の議論が一気にすすむことが予想される。各市町において、県・市町の動向を教職員に対し確実に説明することや、学校現場の実態をふまえた地域移行を推進するようもとめていく必要がある。

ようこそ！！兵教組へ！
事務職員部　新組合員学習会

参加者交流の様子

学習会の様子

7月5日、ラッセホールで事務職員部新組合員学習会が開催され、新組合員、青年層リーダーなど約20人が参加した。

学習会の冒頭、松浦書記長、中井事務職員部長、ひわだ充三田市議会議員のあいさつがあり、続いて「新組合員のためのよくわかる兵教組」と題して、竹島事務職員部副部長より提起があった。竹島副部長は、事務職員部の歴史についてふれながら、これまでの運動のとりくみや成果、課題について説明し、事務職員の学校での役割や重要性についても伝えた。

その後、参加者交流をおこない、日頃の学校現場におけるとりくみや、思い・悩みを出し合い共有した。

この会を通じて、事務職員どうしのつながりを深めることができた。

参加者アンケートより

・兵教組の歴史や研究、活動などを幅広く学ぶことができ、これからも組合の運動に積極的に参加しようと思った。

・同世代や先輩方が学校で実践している教職員への声かけの工夫など、実践できそうなことをたくさん聞くことができ勉強になった。

・初任の頃の気持ちを思い出せた。今日交流でき、つながりを大切にしたいと思う。

・自分の採用時にはこんな講習がなかったので、とてもわかりやすく良かった。

能登半島地震　被災地へ
連合被災地救援　災害ボランティア派遣

6月9日～15日、日教組の要請にもとづき、能登半島地震被災地へ兵教組よりボランティア派遣をおこなった。

（以下、参加者報告記載）

宝塚市教職員組合　井上拓路さん

6月9日～15日、能登半島への「救援ボランティア活動」に参加した。全国から様々な職種の労働組合員約60人が参加した。私は能登半島最北端に位置する珠洲市の担当となった。活動内容は、担当エリアを1軒1軒訪問し、お会いできた方に、何かできることがないか・困ったことがないかを聞く「ニーズ調査」を実施するものだった。

「この景色が大好きなんです。でも、この場所にいつまで住むことができるかわかりません」、「地震で大切な人を2人亡くしました」、「もっと被害を受けている方がおられるので、自分は今の気持ちを言うことはできません。だから、話を聞いてくれたのが、ありがたかったです」といったことも涙ながらに話してくださった。

地震から半年たってなお、あちこちでつぶれた家が、そのままの状態で残されていた。まさに時が止まったままの風景があった。また、半年たってなお、水道が通っていない地域もあった。聞いたお話、見た景色はショックの連続だった。一方で、人々のたくましさを感じたお話もあった。「ずっと水道がとまっていたから、山の上から数百ｍホースをつなぎ、家まで水をひいてきました。そして、薪でお湯をわかして、近所の人たちとお風呂に入っていました」というお話。「地震が怖いから近所の人とビニールハウスで寝ています。夜空がとってもキレイなんですよ」と笑顔で語ってくれた。

活動拠点は、金沢駅からバスで2時間の七尾市。その拠点から毎日2時間かけて珠洲市に入り、活動を終え、2時間かけて戻った。毎日、4時間の移動が必要で、拠点が遠く、活動時間に制限がかかることにもどかしさを感じた。半年という月日がたっているが、まだまだたくさんの支援が必要だと感じた。

災害によって住む場所が奪われ、大切な方を亡くし悲しんでおられる・困っておられる方がいる…。

その現地にいき、組合員が救援活動をすることはとても意義深いものだと思う。助け合いこそ、組合活動の原点だと考えるからだ。これからも、組合活動の意義を大切にしながら、活動を続けていきたいと改めて感じた1週間であった。

タイ・バンコクにて 第1回教育インターナショナル アジア太平洋地域女性会議を開催

25か国42組織より集まった参加者

7月2日～4日、タイ・バンコクにて第1回教育インターナショナルアジア太平洋地域（EIAP）女性会議がおこなわれ、兵教組より深江中央執行委員（日教組青年部副部長）が参加した。

第1回EIAP女性会議とは

第9回EIAP地域会議（22年10月）において採択された「ジェンダー平等に関する決議」では、EIAP地域委員会に選出された女性で構成される女性運営委員会を設立し、地域全体で組合のリーダーシップ開発のための〝Sister with Sister〟モデルを確立し、女性のための小地域ネットワークづくりおよび研修プログラムを支援することを決めた。

本会議は、25か国の42組織よりアジア太平洋地域のEI加盟組織の女性教職員組合員、女性リーダー、若手リーダーが集まり、ジェンダー平等に関する目標、報告メカニズム、組合の検討事項に影響を与える機会、賃金労働条件の交渉における優先事項、女性のリーダーシップ開発の計画を含むジェンダー平等戦略を策定する等、小地域女性ネットワークの活動を開始し、リーダーシップにおける女性リーダーの力量や資質を構築することを目的として開催された。

深江中央執行委員は、本会議のシンポジウムに登壇し、日本における家事（育児や介護）と仕事に関する過去と現在の男女間の意識差について言及し、女性のエンパワーメントをはかるために何が必要かについて、青年層の立場から発言した。

また、様々なセッションやワークショップを通して、各国の労働組合の女性代表者により、女性の課題やジェンダー平等に対して組合は何ができるのか、そもそもなぜ「ジェンダー平等」が組合のとりくみなのか、私たちがめざす女性リーダーはどういう資質をもった人か等、活発な議論がなされた。

深江中央執行委員は、「アジア太平洋地域の国・地域の現状や課題を知ると、ジェンダー平等以前に解決しなければならない課題が多くあると感じた。様々な観点について深く考えることができ、非常に充実した3日間だった」と語った。

〝Sister with Sister〟プログラムの原則を通じて、一緒に経験を共有し、つながり、お互いに刺激し合う会となった。

シンポジウムに登壇した深江中央執行委員（左より2人め）

8/10 開催 なだぎ武さん特別講演

どん底から這い上がる！魂の雄叫び！

テーマ　今、教職員のみなさんに伝えたいこと ～いじめ・不登校・引きこもりを経験した私～

8月10日、ラッセホールにて兵教組組合員を対象に、お笑い芸人としても活躍中のなだぎ武さんによる特別講演「今、教職員のみなさんに伝えたいこと～いじめ・不登校・引きこもりを経験した私～」をおこなう。

特別講演の後、参加者同士の意見交流会をおこない、学校での困りごと・悩み等を共有する。

参加申込は 二次元コードより

なだぎさんは、幼少期からいじめを受け、不登校・引きこもりと苦しい子ども時代の経験がある。そんな状況からいかにして脱出することができたのか。なだぎさんの体験を聞くことで、教職員である私たちも子どもたちにどのように接すればいいのか考える機会となる。そして、学校に働く私たちにも明日につながるヒントがもらえるはずである。

なお、なだぎさんはいじめの体験をもとにした著書「サナギ」を出版されている。

8/19・20 開催 カムバックセミナー

教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所主催

2023年度カムバックセミナーの様子

育休中組合員の **職場復帰をサポート！**

申込・問い合わせは 各所属地域組合にて

8月19・20日、教職員共済生活協同組合兵庫県事業所が主催するカムバックセミナーがオンラインでおこなわれる。

兵庫県では、教職員の世代交代がすすみ、青年層組合員の割合が増え、育休中の組合員も増加している。兵教組は、現場復帰を前にさまざまな不安を少しでも解消し、復職後もサポートしていくため、カムバックセミナーに賛同し、その中で育児にかかわる休暇制度や、生活設計のアドバイス等をおこなっている。

育休復帰後間もない方も参加対象としているので、復帰した今だからこそ知りたい情報や育休中の方へのアドバイスなど、本セミナーに参加することで共有していただきたい。

講座Ⅰでは、「笑顔でいきいきと働き続けるために～育児と仕事の両立支援制度～」と題して、兵教組より育児と仕事の両立を支援する休暇制度等や、経験者からのアドバイスについて説明をおこなう。

講座Ⅱでは、「子育て世代の貯蓄と保障～こどもの成長と教職員共済による備え～」と題して、教職員共済より子育てに関わる貯蓄と保障について、実際にかかる費用等を例示して説明・提案がおこなわれる。

講座の後、地区や地域組合ごとにわかれてグループ交流をおこない、学校現場の最新情報や育児の悩み、職場復帰にむけた思いを意見交換する。

「芦屋花火大会」

芦屋市立岩園小学校　1年　松本　彩愛

「ふしぎな花」

豊岡市立弘道小学校　4年　山下　美瑠

『こどもの詩と絵　第44集』より

＜兵庫県学校厚生会のホームページが変わります!!＞

会員個人の専用ページ「マイ厚生会」WEB会員事前登録スタート！

2025年1月14日稼働

新HPの閲覧や各種手続き等、会員個人の専用ページ「マイ厚生会」の利用には「WEB会員」への登録が必要です。

登録に必要な手続きかんたんシステムのID/PWは
7月から所属所に順次お届けしています（現職（準）会員）。

▶ 新ホームページの閲覧や手続きがスムーズにできるように
お早めに「WEB会員」への登録をお済ませください。

「WEB会員」事前登録手続きに関する問合せ　(一財)兵庫県学校厚生会 事業推進課　☎ 078-331-9967
リニューアルまでは、これまで通り「手続きかんたんシステム」「信用ネットサービス」を利用してください。

WEB会員登録　登録方法